

(朝日、夕刊)

2009年7月27日 月曜日 3版△ 12

## メタボ原因 内臓脂肪の炎症

メタボリック症候群は、肥満でたまたま内臓脂肪に免疫細胞が集まつて炎症を起こすことが原因であると、東京大の研究グループがマウスの実験で確かめた。糖尿病などの生活習慣病をまねくメタボを免疫を調整する薬で抑えられる可能性を示した成果で、26日付の米医学誌ネイチャーメディシン電子版に発表した。

東京大の真鍋一郎特任准教授と西村智特任助教ら循環器内科のグループは、螢光色素を注射して内臓の脂肪組織の細胞をそのまま観察できる方法を開発、高脂肪のエサを与えたマウスの

### 東大グループが解明

内臓の状態を調べた。  
すると、マウスが太って脂肪細胞が大きくなるにつれ、病原体を攻撃する「CD8T細胞」というリンパ球の一種が出現し、それに各種の免疫細胞が集まり、炎症状態になっていることが確認できた。

CD8T細胞を働かなくしたり、なじらしたマウスでは、高脂肪のエサを与えても、内臓脂肪に免疫細胞が集まる炎症の状態は起らなかった。

また、脂肪組織の炎症が起るといふことは、CD8T細胞がないマウスに、この細胞を入れると、脂肪組織に炎症が起きた。

肥満した人の脂肪組織でも同じようないいが起っているのがまだ不明だが、グループの永井良三・東京大教授は「CD8T細胞を抑える薬など」メタボリック症候群による生活習慣病を治療する可能性がある」としている。(本多昭彦)

## 免疫調整の薬で治療の可能性も